

令和 8 年 9 月

伊東市議会 9 月定例会

決 算 大 綱 質 疑 要 旨

伊 東 市 議 会

決 算 大 綱 質 疑 順 序

- 1 伊 東 未 来 杉 本 一 彦 君
大 竹 圭 君

(9 月 8 日 (火) 1 0 時 ~ 1 1 時 5 0 分)

- 2 正 風 ク ラ ブ 村 上 祥 平 君

(9 月 8 日 (火) 1 3 時 ~ 1 4 時 3 0 分)

- 3 自 由 民 主 伊 東 井 戸 清 司 君

(9 月 8 日 (火) 1 4 時 4 0 分 ~ 1 5 時 4 0 分)

- 4 公 明 党 竹 本 力 哉 君

(9 月 9 日 (水) 1 0 時 ~ 1 1 時)

- 5 政 和 会 犬 飼 こ の り 君

(9 月 9 日 (水) 1 1 時 1 0 分 ~ 1 2 時 1 0 分)

- 6 会派に所属していない 片 桐 基 至 君

(9 月 9 日 (水) 1 3 時 1 0 分 ~ 1 3 時 3 5 分)

- 7 会派に所属していない 重 岡 秀 子 君

(9 月 9 日 (水) 1 3 時 3 5 分 ~ 1 4 時)

※ 質疑時間は、進行状況によって変更することがあります。

決 算 大 綱 質 疑 要 旨

伊東未来 杉 本 一 彦

1 令和7年度一般会計歳入決算より、ふるさと伊東応援寄附金については、本市の未来のまちづくりに向け、増額を目指していくべき事業であると考えているが、実績及びこれまでの評価を伺うとともに、今後の展望を伺う。

2 令和7年度一般会計歳出決算より、以下6点伺う。

(1) 第2款総務費より、以下5点伺う。

ア 職員が心身の不調を訴える事案も少なくない中、安全衛生事業において実施されたストレスチェックは職場環境の改善を目的としていることから、結果及び対応について伺うとともに、メンタル疾患等により休暇を取得した職員数とその傾向について伺う。

イ 諏訪市と本市にとって大変有意義であったと考える姉妹都市締結60周年記念事業について、実績及び今後の展望を伺う。

ウ 伊東港・伊東港海岸整備基本構想策定事業について、進捗状況及び今後の展望を伺う。

エ 企業誘致事業について、実績及び評価を伺うとともに、今後の展望を伺う。

オ 市議会解散により実施された市議会議員選挙について、評価及び課題を伺う。

(2) 第3款民生費より、以下5点伺う。

ア 女性相談支援事業において、令和7年度の実績では相談件数が急激に増えているが、その要因について伺う。

イ はじめよう I T O新生活応援事業において、実績を伺うとともに、事業に対する評価及び今後の展望について伺う。

ウ 運転免許証を返納した高齢者にとって、高齢者タクシークーポン券購入助成事業は効果的な事業であると考えるが、利用実績及び評価を伺うとともに、今後の展望について伺う。

エ 市内 8 か所において実施されている放課後児童健全育成事業について、実績及び事業評価を伺うとともに、今後の展望を伺う。

オ 被保護世帯数について、令和 7 年度の実績を踏まえ、傾向及びその要因を伺うとともに、今後の展望を伺う。

(3) 第 4 款衛生費より、高齢化が進展している本市において、申込世帯数が年々増加傾向にあるふれあい収集事業に関して、稼働状況を含む実績及び今後の展望について伺う。

(4) 第 7 款観光商工費より、以下 5 点伺う。

ア 観光動態分析業務委託料において、ビックデータを活用した分析について実績を伺う。また、携帯電話の G P S 情報を活用した按針祭海の花火大会における来場者数等の調査結果を伺う。

イ 門脇駐車場管理運営事業において、観光客の増加に伴い駐車場が不足している現状があるが、令和 7 年度における課題及び今後の対策について伺う。また、車により来訪する外国人観光客も増加していることを踏まえ、現状における課題及び対応策について伺う。

ウ ジオパーク推進事業における大室山観光トイレ整備事業の進捗状況を伺うとともに、今後の観光トイレ整備事業の展望について伺う。

エ デジタルマーケティング事業について、成果及び今後の展望を伺う。

オ 県との協働により、遊休不動産を活用し、中心市街地の活性化のため実施したり
ノベーションまちづくり推進事業に関して、事業実績、成果及び展望について伺う。

(5) 第8款土木費より、以下2点伺う。

ア 3次元モデルの公開がされるなど、市民の理解を得る手段として様々な試みがされている伊東駅周辺地区整備事業について、成果及び今後のスケジュールを伺う。

イ 市営住宅性能向上事業は、市営住宅長寿命化計画に沿って整備が進められていると考えるが、これまでの実施状況を伺うとともに、今後の市営住宅の在り方について、どのように考えるか伺う。

(6) 第10款教育費より、以下4点伺う。

ア 経済的に困難のある家庭に学費の援助を行う就学援助について、実績及び近年の傾向を伺う。

イ いじめ・不登校対策事業について、決算額増加の理由、事業の目的及び成果並びにいじめ・不登校の近年の傾向を伺う。

ウ 教育委員会では、令和6年度に認定したいじめ重大事態に関して、現在も調査報告がなされていないと承知しているが、調査報告書の作成状況、今後の報告予定及び要した費用について伺う。

エ 前市長の判断により中止となった新図書館建設事業について、老朽化の著しい中央会館を維持していくためには、耐震及び修繕費用として莫大な経費を要すると考えるが、生涯学習センター管理運営事業における中央会館の修繕に要した費用の実績を伺うとともに、今後、中央会館を存続していくに当たって、経費の概算をどのように見込むか伺う。

- 3 給与に関する報告に関し、一般職職員等給与等（決算）において、例年と比較し時間外勤務手当が増加しているが、その要因について伺うとともに、超過勤務職員等への対応を伺う。

決 算 大 綱 質 疑 要 旨

伊東未来 大 竹 圭

1 令和7年度病院事業会計決算について、以下3点伺う。

- (1) 周産期医療体制交付金の6,400万円について、財源及び使途を伺うとともに、当該交付金により周産期医療体制の確保にどのような効果があったか伺う。
- (2) 固定資産の取得がなく、修繕費も32万4,500円にとどまる一方で、有形固定資産減価償却率が51.5%となっており、器械備品については95.0%に達していることから、施設及び医療機器の更新について考えを伺う。
- (3) 貸借対照表に記載の現金預金22億2,513万9,449円は、将来の大規模修繕や突発的な支出への備えと承知しているが、安全性を確保した上で運用し、その運用益を交付金の拡充などに充てて利活用する考えはないか伺う。

2 令和7年度下水道事業会計決算について、以下3点伺う。

- (1) 経費回収率が1.8ポイント上昇し、55.7%となった要因を伺うとともに、一般会計からの繰入金で12億1,000万円に上ることについて、使用料水準の適正性をどのように評価しているか伺う。
- (2) 有収率が4.6ポイント上昇し、52.6%となった要因を伺うとともに、不明水対策として実施した取組を伺う。
- (3) 事業計画面積864.8ヘクタールに対する整備率が70.5%にとどまり、令和7年度の整備面積が、1.1ヘクタールで前年度と比較して大きく減少したことから、伊東市公共下水道事業経営戦略において令和7年度に予定していた計画区域の見直し状況及び今後増加が見込まれる建設改良費の財源の見通しを伺う。

決 算 大 綱 質 疑 要 旨

正風クラブ 村 上 祥 平

1 決算概要説明に関し、以下2点伺う。

(1) 一般会計歳出決算の予算現額に対する執行率は92.6%で、前年度に比べ0.4ポイント減となった。また、令和6年度における同執行率は93.0%で0.8ポイントの減、令和5年度における同執行率は93.8%で1.0ポイントの減であったことを踏まえ、近年の歳出予算の執行状況の推移について、どのように分析しているか伺う。

(2) 一般会計歳出における投資的経費の決算額は22億5,990万1,000円であり、歳出総額に占める割合は7.0%、決算額は前年度と比較し32.9%の増となっている。台風15号による災害復旧事業を除く投資的経費について、どのように評価しているか伺う。

2 伊東市各会計歳入歳出決算及び基金運用状況審査意見書を踏まえ、以下2点伺う。

(1) 歳入における自主財源は167億8,916万5,000円で、依存財源は167億9,295万6,000円となり、令和4年度以来3年ぶりに依存財源が僅かに上回ったが、見解を伺う。

(2) 令和7年度末における市債現在高203億409万6,000円に対し、基金現在高150億9,534万3,000円となっていることを踏まえ、その比率について、どのように認識しているか伺う。

3 一般会計歳入歳出決算に関し、以下9点伺う。

(1) 市税の収入率において、市民税及びたばこ税を除く全ての税目で、滞納繰越分の収入率が低下しているが、その要因と対策について伺う。

(2) 入湯税について、税率引上げ等の条例改正が令和7年10月1日に施行され、対前年度比34.2%増の約4億4,948万円の歳入となっているが、条例改正に伴う宿泊者数等への影響及び今後の見通しを伺う。

(3) 第2款総務費について、以下2点伺う。

ア 一般管理費の姉妹都市締結60周年記念事業において、事業をどのように評価し、今後の姉妹都市交流につなげていくか伺う。

イ 企画費の移住定住促進事業において、情報発信をより充実させるための方策として、どのような取組が行われ、移住の促進につながったか伺う。

(4) 第3款民生費について、以下3点伺う。

ア 障害者福祉費の障害者自立支援事業における取組状況を伺うとともに、就労に向けた支援の成果について伺う。

イ 老人福祉費の高齢者生活支援事業における高齢者に対する交通費の助成について、バス、電車及びタクシーの利用状況や購入時の自己負担額を踏まえた事業効果を検証したか伺う。

ウ 老人福祉費の高齢者地域福祉推進事業における老人クラブ運営費補助事業について、各老人クラブの活動状況等を踏まえ、現在の補助額をどのように評価しているか伺う。

(5) 第6款農林水産業費において、不用額が2,179万3,000円となり、対前年度比121.3%となった要因を伺う。

(6) 第7款観光商工費において、執行率が75.9%であった要因を伺うとともに、特に商工業振興費が77.8%の大幅な減少となった主な要因について伺う。

(7) 第8款土木費について、以下2点伺う。

ア 都市計画総務費、公園整備管理費及び公園建設費において実施された都市公園整備に関し、市民の意見を取り入れた、遊具を含む公園整備の状況について伺う。

イ 市営住宅性能向上事業において、リフォームを行った住戸の実績を伺うとともに、稼働率向上の観点からどのように評価しているか伺う。

(8) 第9款消防費の災害対策費において、近年、日本各地で大きな地震や大雨等の災害が発生している中、災害対策に注目が集まっていることから、自主防災組織育成事業や防災用資機材整備事業の取組及び成果について伺う。

(9) 第10款教育費について、以下3点伺う。

ア 決算額は33億4,906万5,000円であり、歳出総額に占める割合は10.3%であるが、教育費の割合が妥当なものと考えているか、見解を伺う。

イ 学校統合通学支援事業におけるスクールバスの利用状況について伺う。

ウ 小学校及び中学校における空調設備設置工事が繰越明許による実施となった主な要因を伺う。

4 水道事業会計決算において、経常収益は14億7,420万円で、対前年度比0.3%減、経常費用は15億1,610万円で、対前年度比0.5%増となっている。収益減、費用増の状態が継続しているが、現在の状況をどのように分析し、対策を考えているか伺う。

5 下水道事業会計決算において、湯川終末処理場における有収率が51.1%となり、対前年度比4.6ポイントの増となっていることから、取組内容を伺うとともに、成果に対する評価を伺う。

決 算 大 綱 質 疑 要 旨

自由民主 伊東 井 戸 清 司

- 1 一般会計における歳入決算額を335億8,212万1,000円で対前年度比1.6%の増とし、歳出決算額は、325億571万1,000円で執行率は92.6%、対前年度比1.1%の増となっているが、令和7年度の歳入歳出決算をどのように分析しているのか伺う。

- 2 令和7年度から令和8年度に繰り越した繰越明許費は合計11億5,290万6,000円となっているが、繰越明許費が増加した要因をどのように分析しているか伺うとともに、社会動向に鑑みると、今後も繰越明許費が増加する傾向にあると考えるが、どのような対策を考えているのか伺う。

- 3 歳出決算における不用額がここ数年増加傾向にあるが、どのような影響によるものか伺う。

- 4 市債残高は年々減少しており、財政の健全化が図られていると考えるが、どのように分析しているか伺うとともに、令和7年度における借入れ状況は令和6年度に比べ3億51万2,000円増加していることについて、どのように分析しているのか伺う。

5 令和7年度決算における基金残高について、以下3点伺う。

(1) 財政調整基金残高は、令和6年度末と同程度の37億7,368万3,000円と
なっているが、財政調整基金の適正額に対する見解を伺う。

(2) 公共施設総合管理基金は、4億3,932万1,000円と前年度より3,403
万2,000円減少しているが、基金取崩しに係る充当先と、今後の基金積立てに対
する見解を伺う。

(3) 減債基金残高は、7億7,355万5,000円と前年度末より3億3,256万
2,000円減少しているが、減債基金の運用に対する見解を伺う。

6 第2款総務費第1項総務管理費第10目企画費における移住定住促進事業について、
実績及び効果を伺う。

7 第3款民生費第2項児童福祉費第1目児童福祉総務費に係る子育て事業について、実
績及び効果を伺う。

8 第4款衛生費第1項保健衛生費第1目保健衛生総務費における妊娠・出産・子育て応
援事業について、実績及び効果を伺う。

9 第7款観光商工費第1項観光費第3目宣伝費における、シティプロモーション推進事業について、実績及び効果を伺う。

10 公営企業会計決算について、以下3点伺う。

(1) 病院事業会計の決算をどのように分析しているのか伺うとともに、伊東市民病院が継続的に健全に運営されるために何が必要と考えるか伺う。

(2) 下水道事業会計決算をどのように分析しているのか伺うとともに、財政健全化に向けたこれまでの取組及び今後の課題並びに運営方針を伺う。

(3) 水道事業会計決算をどのように分析しているのか伺うとともに、今後、運営方針の大幅な転換が必要であると考えているが、見解を伺う。

決 算 大 綱 質 疑 要 旨

公明党 竹 本 力 哉

令和 7 年度一般会計決算について、以下 8 点伺う。

- 1 令和 7 年度決算について、実質収支は黒字を確保したが、単年度収支は 1 億 2, 0 5 8 万 6, 0 0 0 円、実質単年度収支は 2 億 1, 1 7 6 万 6, 0 0 0 円の赤字となっている。実質単年度収支が赤字となる一方、財政調整基金は 3 7 億 7, 3 6 8 万 3, 0 0 0 円を確保していることから、これらを踏まえた令和 7 年度の財政運営をどのように総括・評価しているか伺う。
- 2 令和 7 年度の実質収支比率は 3. 9 % であるが、適正な水準と評価しているか伺うとともに、どの程度の水準を維持することが望ましいと考えているか伺う。
- 3 令和 7 年度の実質単年度収支は 2 億 1, 1 7 6 万 6, 0 0 0 円の赤字となり、前年度の 6, 3 7 2 万円の赤字から赤字幅が拡大しているが、この要因をどのように分析しているか伺う。
- 4 持続可能な財政運営を実現するためには、基金の取崩しや市債の発行に依存するのではなく、経常的な歳入による行政サービスの提供が重要であると考えことから、いわゆるバランスド・バジェットについて、見解を伺う。

5 地方債残高は203億409万6,000円で、標準財政規模の171億4,155万2,000円を上回っており、また、令和7年度の元利償還金は22億9,907万6,000円となっている。今後、公共施設の更新等により新たな市債の発行が必要となることを考えた場合、公債費が財政運営に大きな負担となるリスクについて、どのように認識しているか伺うとともに、地方債残高をどのように評価しているか伺う。

6 財政力指数は0.641であるが、本市の財政力についてどのように評価しているか伺う。

7 自主財源である入湯税等の税収の推移について、成果をどのように評価しているか伺う。また、人口減少が進み税収の減少も見込まれる中、今後の自主財源の確保について、見解を伺う。

8 58事業を見直し、8億977万2,000円の経費節減を行ったことで得られた財源を有効かつ効果的に活用したとしているが、以下の事業に係る実施状況及び効果並びに今後の見通しについて伺う。

(1) 高齢者タクシークーポン券購入助成事業

(2) 学校給食費無償化事業

決 算 大 綱 質 疑 要 旨

政和会 犬 飼 このり

一般会計歳出決算に関し、以下9点伺う。

- 1 国際交流協会運営費補助金を支出しているが、伊東国際交流協会においてどのような事業が展開されているか、事業内容とその評価を伺うとともに、今後の課題を伺う。

- 2 選挙費について、令和7年度は5度にわたり選挙が執行されたことを踏まえ、市議会議員選挙の成果及び課題をどのように認識しているか伺う。

- 3 庁舎維持管理事業において、受電中の会話が録音される旨のアナウンスを行う装置を導入したことにより、迷惑電話に対する抑止効果があったと考えているか伺う。

- 4 医療・福祉人材確保のための新生活応援事業に関して、申請者数が伸びていないように見受けられることから、近年の経過を踏まえ、効果及び課題について伺うとともに、今後の展望を伺う。

- 5 花咲く伊東整備事業の事業実績を伺うとともに、車で通過するドライバーに向けたバイパス沿いよりも、まち歩きをする来遊客向けに整備すべきと考えることから、今後の事業展開について見解を伺う。
- 6 YUKATAにぎわい演出事業について、委託事業と負担金では事業主体が異なると認識していることから、令和7年度における本事業の実施主体及び事業の効果を伺うとともに、委託事業から負担金へ変更した理由とその経緯を伺う。
- 7 観光宣伝補助事業のうち、伊東旧見番手習い妓の会に対する補助事業の効果をどのように認識しているか伺う。
- 8 シティプロモーション推進事業について、それぞれの事業にかかる委託料は十分であるとは感じられないが、どのような成果を認識しているか伺う。
- 9 予防伐採事業について、事業の趣旨を伺うとともに、実績をどのように評価しているか伺う。

決 算 大 綱 質 疑 要 旨

片 桐 基 至

1 6次産業化推進事業の決算額が1万円であったことから、事業効果をどのように評価しているか伺うとともに、当初の目的を達成できたか伺う。

2 水産多面的機能発揮対策事業補助金について、藻場を再生させることは水産業振興にとって重要と考えることから、事業内容、実績及び今後の展望を伺う。

3 リノベーションまちづくり推進事業について、実績及び今後の方針を伺う。

決 算 大 綱 質 疑 要 旨

重 岡 秀 子

1 令和7年度歳出款別総括表によると、以下の款について、予算の執行率が例年より低いが、その主な要因を伺う。

(1) 総務費

(2) 観光商工費

(3) 災害復旧費

2 普通建設事業費について、昨年度より5億4,342万円増加し、歳出総額に占める割合は対前年度比1.6ポイント増となっており、直近の5年間では令和3年度に次ぐ規模となっているが、その主な要因を伺う。